

秋分の日の意味と松山小のすごい人

校長

皆さん、おはようございます。今日は、2つ話します。1つ目は、「秋分の日」ってなあにですか。毎年、9月の23日頃を、「秋分の日」といいます。太陽が真西に沈む日を毎年計算して決めるので、23日と決まっていません。「秋分の日」を境に、長かった昼がどんどん短くなってきます。「秋分の日」は、昼の長さや夜の長さがほぼ同じになる日です。暑い夏から涼しい秋へと変わり初めるのも、そのためです。秋になるとたくさんの作物が実ります。だから、収穫した物への感謝をするための日です。また、ご先祖様や亡くなった人を思い出して大切にしてお彼岸と重なってまいりますので、「国民の祝日」とされました。これから、どんどん夜が長くなってきます。4時過ぎるとうす暗くなってきますから、遊びに行くときには、今だと遅くても5時までには必ず帰ってきましょう。出かけるときには、おうちの人にどこに行くのか、いつ帰ってくるのか知らせていきましょうね。

2つめは、校長先生が朝、登校するときに気づいた松山小のすごい人の話です。

1つ、相手の顔を見て、笑顔で挨拶できるすごい人がいます。校長先生はその子どもから毎日元氣をもらっています。100点満点の挨拶だなと思います。

2つ、止まってくれた車の運転手さんに、丁寧にお辞儀できるすごい人がいます。地域の方から、松山小の子どもたちのお辞儀する姿がとても立派だねほめられました。しかも、これができる人がたくさんいるから驚きです。

本当にいい子ども達だなあと感心しています。校長先生は、こんないい学校で働けて幸せだなあとと思います。その他に、通学路に落ちていたゴミを拾ってきた人や押しボタンのある信号機で、わざわざ車を止めないように通り過ぎるのをしばらく待って、ボタンを押して横断歩道を渡ってきた人もいました。自分自身も安全に渡れるので、運転手も自分もどちらも助かります。こんなことができるのは本当にすごいです。

あいさつやお辞儀がちゃんとできて、周りに人のことを考えられる人は、すごい人だと思います。なぜなら、相手を敬う気持ちがあるからです。分かりやすく言うと、相手を自分のように大切にしている気持ちがあるということです。

だから、松山は、笑顔と優しさでいっぱいになると思います。いじめやいたずらなんか、なくなっていくはずですよ。これからも、続けてほしいです。きっと、松山地区全体が明るくなります。これで、校長先生の話が終わります。